

「僕にできることはまだあるかい？」

## 「愛にできることはまだあるよ」

カテウラ音楽団 マルセロ・カセス先生



首都アスンシオンのすぐそばにあるカテウラ地区は、廃棄物が高く積まれた中に、多くの貧困層の方々が不法占拠という形で暮らしている。カテウラ音楽団はその地区の小学生～20歳くらいの子供たちが放課後に通う学校。手作りの廃材の楽器を使って練習をしている。カセス先生は音楽団のアシスタントとして指揮や指導を務めている。

### ▶ やりがい

子供が日に日に一步一步前進していることを確認できたとき。我々は楽器を渡して生徒に教えているが、楽器というのは一つのツールだと考えている。変化・変容を促すツールなので、生徒に技術は教えるが、それ以上に力を入れているのが価値観やしつけなどを伝えることです。

### ▶ 大変なこと

毎日何等かの形で表れているが、日々それらを乗り越えていくように努力できるようにしている。課題の一つとして、子どもたちの家庭環境が悪い場合があること。そういう場合は特に細心の注意を払って、その子の力になれるようにしている。

### ▶ 夢

カテウラ音楽団がパラグアイーになることです。その先には世界一の音楽団になることを目指しています。

### ▶ 日本の子供たちへ

みなさん、夢があったらそれを叶えるために、すべての条件を備えなければならない、というわけではない。少しずつ、一歩ずつまずは踏み出して、そこから夢を叶えていってほしいと思う。

これからみんなが成長するにしたがって、いろんな壁に直面すると思うけど、乗り越えられない壁というのはない。みんなが抱える悩みより数十倍の悩みを抱えている人たちもいるので、がんばってください。夢を叶えるためには、情熱・努力・忍耐があれば、必ず叶えられます。

関連するものに○をつけてください。(複数に○を。)

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標		

カテウラ音楽団

マルセロ・カセス先生

1

「僕にできることはまだあるかい？」

## 「愛にできることはまだあるよ」

パラグアイ農家 ミグドニオ サムリオさん



ミグドニオさんの妻は、女性が現金収入を得られる仕事を得るために近隣の主婦たちと農村女性グループを結成し、手作業で作ったものを売っている。ミグドニオさんは農業や畜産を営む傍ら、そんな妻を応援している。娘は赤土の道を数十分進んだ地域にある学校に通う中学生。非常に優秀で、将来を期待されており、青年海外協力隊の山口萌さん（資料4）が支援している。

### ▶妻の仕事に理解はあるのか。

活動を始めたいと言いだした最初から彼女を応援している。来てくれてありがとう。外から来て色んなことを教えてくれたおかげで色んなことが少しずつ良くなった。ありがとうございます。みんなと一緒に手を取り合って活動することで、研修などで色んなことを教えて貰い、自分たちの生活が良くなるきっかけになっているので嬉しい。もっと外国人を受け入れる体制ができれば、もっとパラグアイは良くなる。場所はたくさんあるから。学校に行けなかった分、皆さんが来て教えてくれるから知識が少しずつ着いてきているから。そこから少しずつ学ぼうと思っているから。

### ▶娘への教育観

自分も60歳で学校に行けなかったから、外の方が言ってくれたことを聞いて、少しずつ知識を貯めて、子供たちには学んで欲しい。ああ、幸せを感じる。パラグアイに来てくれただけでなく、僕の家に来てくれてありがとう。萌ちゃん（青年海外協力隊）達は自分の子供だよ。遠く家族と離れて他の国のために働くなるとどんなに大変か。だから僕の子供だよ。自分の娘も外で働いている。だから彼女達の気持ちがわかる。子供5人いる。女の子三人。子供たちに勉強させてあげたい気持ちはいっぱいあるけど、経済力がないから、勉強したければ子供たちの稼ぎで学んでくれないといけない。悲しいけれどもしょうがない。もう一言いいですか！！ 僕の目にはみなさんがどう映っているかということ、どこからか私たちを助けてくれる存在で、宇宙人のように降りてきて、なにか光を感じた。私の中にはもう1人偉大な人間（神）がいる。神様が私の人生をいい方向に導いてくれる。皆さんも団結して、私達も団結して、そのグループが団結すれば力が増すでしょ。絶対光はさすから。前進しましょう。

関連するものに○をつけてください。（複数に○を。）

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標		

パラグアイ農家  
ミグドニオ サムリオさん

2

「僕にできることはまだあるかい？」

## 「愛にできることはまだあるよ」

パロサント・ミドリ 立川巧雪さん・いずみさん



立川さんご夫妻は、南米の聖なる香木「パロサント」を箸やマグカップなどに加工し、販売する会社を経営している。「パロサント」は幸せを呼ぶと言われ、現在もシャーマンが治療や儀式に利用する伝統的な木だが、その原産地では廃材になっていた。森林伐採が多いパラグアイで「緑を大切にしましょう」というメッセージを込め、パロサント・ミドリという会社を始めた。

### ▶きっかけ

(巧) 現地の日系移住地（日本人が移住した土地）の知り合いが、現地に何かお土産になるようなプレゼントになるようなものを作ってくれないかと言い、現地の木で作ったお箸を贈ったことがきっかけ。それがきっかけで徐々に幅を広げ、今100種類以上のものを手掛けているということです。

### ▶大変なこと

(巧) 実は、ありません。ブランドとしてどんどん伸びている中で、昔の自分だったら大変だったと思うことはあるが、全部失敗は成功のもと、大変なことを繰り返しているうちに成功につながっているので、趣味が仕事。趣味と仕事がつながっている。休みの日でも仕事したくなる。苦に感じてない。麻痺しているかもしれないが、楽しいので。

### ▶日本の子供たちに一言

(巧) 僕は、妻と同郷で育ったが、小中高と遊んでばかりで、家にいればゲームばかりで、今時の子と変わらないと思うが、一番好きなゲームがシュミレーションゲームだった。今お仕事をする上で、人材配置やスケジュール管理だとか今やっていてすごく楽しいが、昔やっていたゲームにすごく感覚が似ている。子供たちに言うとすれば、今やっていることが無駄になることはないと思うので、ゲームやってもいいと思うし、勉強やらなくてもいいと思うし、好きなことをずっと続けてもらいたいと思います。  
(い) じゃあ逆に、一つのことをずっと続けなくても、いろんなことをやってみてほしいと思う。好きなことが見つからないという人も結構多いと思うが、もう「あそこのお店のあの料理食べてみたい」とか、そんなもので良くて、何でも心が動いたことに体も動かしてほしい。なんでも無駄なことはないから。

### ▶やってあげばよかったこと

(巧) ちょうど反抗期で遊んでばかりで、家にいる時間がなかった。親孝行、家族と接する時間ももっとあればよかったとは感じます。

関連するものに○をつけてください。（複数に○を。）



パロサントミドリ

立川巧雪さん・いずみさ  
ん

3

「僕にできることはまだあるかい？」

## 「愛にできることはまだあるよ」

青年海外協力隊員 山口萌さん



中央左の女性。大学在学中に青年海外協力隊に応募し、卒業後すぐパラグアイに来た。地方農村部であるイトゥルベ市役所で、子供にダンスや英語を教えたり、虐待を受けている子供を支援したりする活動をしている。

勉強するお金もなく、職業も知らない子供たちに、奨学金を取る方法を情報提供したり、将来の夢を考えて、夢のために今具体的にできることは何か考える場として光 mimbi というグループを作った。サムリオ家（資料2）もよく訪問している。

### ▶きっかけ

ボランティアになろうと思ったきっかけは、大学2年の時のハワイ大学への1年間の留学。同じ寮に住んでいたのでみんな仲良くなった。周りの友人は奨学金をもらって国のために働きたいなどと、自分と同じ年なのにすごかった。9歳の時から留学が夢だった。留学後は毎朝「私はハワイにいるんだ！」と実感していた。友達が困っていたら手を貸すというカジュアルな感覚で、国際協力の道に行こうと決めました。

### ▶やりがい

自分の企画したイベントに可能性を感じる。もしかしたらこの子に響くかもしれない。子供たちがキラキラ、集中しているとき。

### ▶大変なこと

子供に向けて自分が何かしているときは教えるという立場だが、市役所では大学卒業してすぐ来ているので、カウンターパートに何かを教えるというスタンスは取りたくない。でも自分が見本となる立場にならないといけないので、違和感なく見せるにはどうすればいいか難しい。言葉の壁もある。スペイン語は直接的な表現ばかりなので、相手に不快な思いをさせないために、表情や雰囲気やで伝えている。

### ▶夢

オーガニックコットンのビジネスに興味がある。コットンは生活に欠かせない、環境にもいいし、衣類を作る途上国の女性の支援になる。創ることが好きなので、好きと社会貢献をミックスして何かできれば。エシカルファッションにも自分ができることで貢献していければと思います。

### ▶やっておけばよかった

両親のことや先生の意見があまり理解できず、社会に対する問題や不満が結構あった。男女の差、みんながこうするからこうしなければならないなどに、どうしても賛同できなかった。私は歯向かったタイプ。分からなければ分からないと言っていたが、もう少し早く大人の意見にもオープンに耳を傾けていたら、早い段階で気づけたこともあると思う。経験のある大人の意見も参考にしながらがんばって。

関連するものに○をつけてください。(複数に○を。)



青年海外協力隊

山口萌さん

4



「僕にできることはまだあるかい？」

## 「愛にできることはまだあるよ」

青年海外協力隊 橋口奈々穂さん



右の女性。京都で4年間学校栄養教諭の仕事をして、パラグアイに来た。学校給食の地産地消や、パラグアイの農業をよくするための活動をしている。現在の勤務地であるサン・フアン・ネポムセノ市では1年間で2か月程度しか給食が提供されていない。栄養士としての活動の傍ら、パラグアイの人々とともに平和を考えるために原発展を主催するなど、幅広く活動されている。

### ▶きっかけ

JICAボランティア応募のきっかけは、大学時代にカンボジアの時代検証ツアーに参加したこと。それまでは募金活動をしていたが、実際にカンボジアで被害者の方とお話したときに、生きるすべを分け合うボランティアをしたいと思ったので、この仕事を始めた。

### ▶やりがい

学校給食にどんな問題があるのか、なぜあるのかを調べている。仲間と共有したときに、今まで知らなかったことをシェアして新しい視点を共有できたときにやりがいを感じる。

### ▶子供たちにひとこと

皆さんには夢やチャレンジしたいことはありますか。もしあるのであれば、できるかではなく、どうしたらできるかを考えてほしい。私は22歳で青年海外協力隊になりたいと思い、それから4年間日本で仕事をがんばって、27歳の時に夢を叶えた。夢を叶えるまでにたくさん失敗をしたし、嬉しいこともつらいこともあったので、途中で目標が変わってもいいと思います。自分でやりたいことにチャレンジしてみてください。

### ▶やっておけばよかったこと

水泳部に所属していて、キャプテンだった。選手としては成績良くなかったが、部活動に夢中の高校生活。やっておけばよかったことはあまりない。大人になっていろんな人に出会ってから、一人ひとり持っている専門性が違うだけなので、夢中になれるものがあれば、それでいいのではないかと思います。

関連するものに○をつけてください。(複数に○を。)

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標		

青年海外協力隊

橋口奈々穂さん

5

「僕にできることはまだあるかい？」

## 「愛にできることはまだあるよ」

JICAパラグアイ事務所 村上幸枝さん



JICAとは、日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行う機関。その国の経済や社会の発展に力を貸し、国際協力の促進に資することを目的としている。

村上さんは小学校3年生と年長さんの娘さんたち家族を日本に残し、単身赴任をしながらパラグアイ事務所で働いている。

### ▶きっかけ

もともと中学高校時代に英語が好きだった。語学を生かした仕事に就きたい、英語は勉強している人も多いので、他の言語を勉強したいと思ってスペイン語を専攻し、ずっとスペイン語を使い続ける仕事をしたと思ってこの仕事を選んだ。JICAにはずっと興味を持っていたが、就活時期に先輩から話を聞く機会があり、途上国のためにがんばっている専門家がたくさんいることに興味をもち、世界でスペイン語を使って働きたいと思ってJICAに入りました。

### ▶夢

大きなところでいうと、JICA事務所がなくなるくらいパラの人たちが自分たちでよい暮らしに向かって、他の国の力も借りないで前に進んでいけるような時がいつか来たら売れしいと思う。

### ▶子供たちにひとこと

いろんなやりたいことがたくさんあるといいなと思う。心の中にやりたいことを持っている、だれでもすごく仕事に生かせる。好きなこと・やりたいことじゃないとなかなか続くことができないと思うので、1つ2つでもいいから、自分のやりたいことを探して、どうやったら自分のやりたいことが実現できるのか考えて、好きなこと・やりたいことに進んでいけるといいなと思う。他の国・開発途上国で問題になっていること、どうして人々は貧しかったり病院に行けなかったりするの。授業・インターネット・本など調べ、他の国に興味を持ってもらえたらうれしいと思います。

### ▶やっておけばよかったこと

すごく英語が好きだったので一生懸命英語を勉強していたが、留学はしていなかった。周りの友達で留学をして視野を広げていた人もいたので、必ずしも留学しなければならないわけではないが、少しでも他の国のことに興味があったら、高校時代に留学しておくといいと思います。それが心残りです。

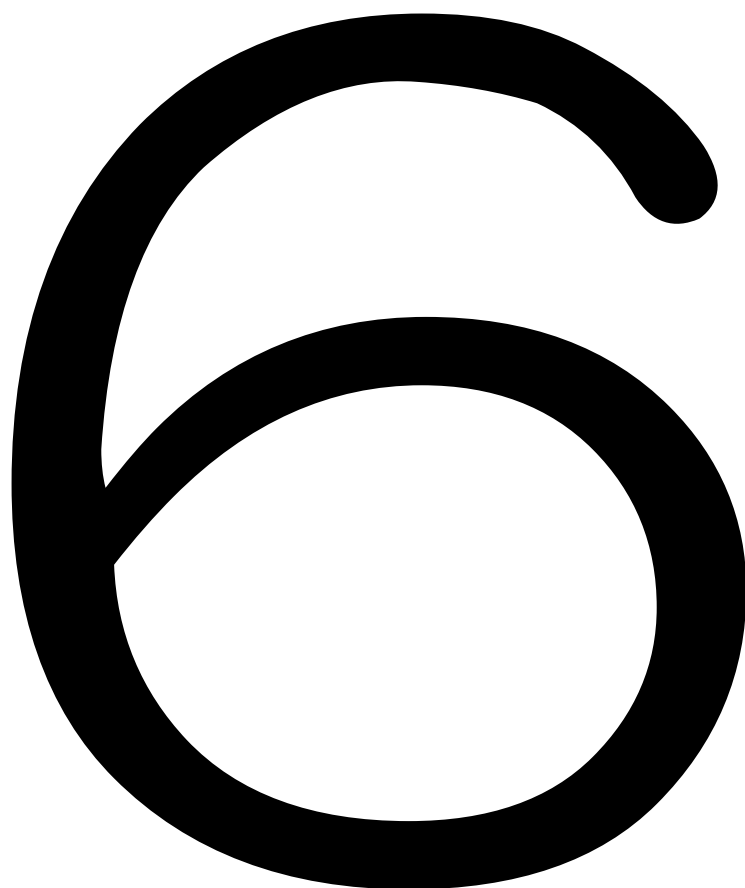
関連するものに○をつけてください。（複数に○を。）



JICAパラグアイ

事務所所員

村上幸枝さん



「僕にできることはまだあるかい？」

## 「愛にできることはまだあるよ」

青年海外協力隊 古賀健太郎さん



大学在学中からフィリピンのストリートチルドレンの支援をしているNGOに足を運んでいた。大学四回生から教員免許を取りはじめ、その中でJICAのボランティアになりたいと思い始めた。1年間日本の中学校で常勤講師をしながら青年海外協力隊の受験をし、現在では貧困地域にあるPCスクールで教員をしている。

### ▶ やりがい

毎日感じている。子供たちとやり取りをするのも楽しいし。ここの子供たちは、カアグアスの中でもとくに貧困層なので、学校に来るのも難しい子もいる。小学校1年生は20名くらいいるが、中学3年生になったら6~7名など、だんだん減ってしまう。その中でも頑張ってきている子もいますし、そういう子が本来なら手が届くはずなのに、届かない夢がある。それはお金がない、情報が手に入らないなどの問題があって。そういう時に僕が手を差し伸べてあげる役割ができたときによかったと感じる。アスンシオン（首都）の子は愛情不足の子がいるが、ここは常に誰かがいて、貧しくても愛情豊かな子が多い。

### ▶ 大変なこと

大変なことは、風呂に長く入ってない子や服が汚れていたりして臭いが強いこと。子どもたちは、勉強しに来るというより、友達と遊びに来ている感覚。親の介護や制服がない、障害者の介護などで学校来られない子もいる。

### ▶ 夢

もともとは教員に戻ることも考えていたが、最近は世界は広いなと感じている。もっといろんな世界を見たい。近くのアルゼンチンなど、世界の広さを見て学んで、また教育に戻りたい。

### ▶ 教育の根本的な問題

先生自体がどういう授業をしていいかわからない。物質は買えない。カアグアスの中でもとくに貧困層なので。制服買えなくて学校来られない子もいる。援助があっても足りない。基本トップダウンで下から意見を言えない。先生の中に教育の概念がない。

関連するものに○をつけてください。(複数に○を。)

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標		

青年海外協力隊

古賀健太郎さん



「僕にできることはまだあるかい？」

## 「愛にできることはまだあるよ」

コロネル・オビエド浄水場 オルガさん



かつてこの地域では、水の質が低いために子供に健康被害が出たり、供給量不足で1日8時間は断水したり、雨季には増水してしまったりしていた。  
その後、日本の無償資金協力によってコロネル・オビエド浄水場が作られた。オルガさんは当時のコーディネーターを務めていた。

来てくださってありがとうございます。日本国民のみんなみんなみんなに、心からありがとうございます。この私の今のハグは、皆さんの協力のおかげでこの地域の十万人の方が質の高い水を飲めるようになったんです。

### ▶ やりがい

SDGsにあるように、安全な水を供給することは国にとって貢献できることであり、やりがいをそこに感じている。パラグアイは一人当たりの水の供給量は多いが、質はまだ不足している。このような施設ができたことは、パラグアイ国民にとって大変重要なことでした。

### ▶ 大変なこと

一番は水資源を保全すること。工場排水がそのまま川に流されるということは、その水を供給することになり、コストもかかる。自然を守ることは消費コストの削減にもつながるが、そこを理解してもらうのが難しい。また、質のいい水を万人に提供するのには課題がある。

### ▶ 日本の子供たちに一言

今はいろんな情報をインターネットを介して見ることができる。そこで知ったのは、日本の子供は幼い時からきちっと節約ができるということ。こまめに水を使うとか、自分が水を節約できるということは、別の人がある分使えるということ。そういう教育ができていることは素晴らしいことですよ。

### ▶ 日本の教師に一言

日本がいろんなところで援助をしていることは、国の格差をなくそうとしているのだと思う。平和のためには格差をなくすのが大切。格差があるから人は争う。それをきちっと子供たちに伝えるのが大切だと思います。

関連するものに○をつけてください。(複数に○を。)



コロネル・オビエド浄水場

オルガさん

